

平成29年度 大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程学生募集要項

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学研究科は、人間や社会の全体的把握を目指す、総合科学としての人間科学に、より高い学術的な水準と、深遠な社会的意義を付加するために、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足しました。人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。このような社会的要請に応えるため、下記のような基礎学力や研究力を有する者を求めています。

(博士後期課程)

- 博士後期課程の一般入試では、各分野に必要な高度な専門知識、外国語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と論文審査で選抜します。
- 博士後期課程の社会人特別入試では、高度な研究計画・実施能力を、研究計画書及び修士論文、研究論文に基づく論文審査で選抜します。

人間科学研究科では、学際性・実践性・国際性を柱とする教育プログラムを充実させてきました。博士後期課程では、博士前期課程からの進学者を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探究する素地を持つ学生を積極的に受け入れます。同時に、高度な語学力、異領域へ強い関心や多彩な職業経験を有した者など、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。

注) 本研究科の課程は博士課程であって、これを前期2年の博士前期課程(修士)及び後期3年の博士後期課程(博士)に区分するものです。

1. 専攻・系・講座・研究分野・募集人員

専攻	系	講座	研究分野	定員
人間科学研究科	行動学系	人間行動学	基礎心理学／応用認知心理学／ 社会心理学／臨床死生学・老年行動学／ 環境行動学／安全行動学	42名
		行動生態学	比較発達心理学／行動生理学／行動統計科学／ 生物人類学／比較行動学	
	社会学・人間学系	社会環境学 (専門社会調査士コース)	理論社会学(社会学理論／現代社会学) 経験社会学(経験社会学／社会データ科学) 文化社会学(コミュニケーション社会学／ 文化社会学／比較社会学) 福祉社会学(社会保障政策論／比較福祉論)	
		基礎人間科学	現代人間学(科学哲学／現代思想／比較文明学) 人類学(人類学／科学技術と文化)	
	教育学系	臨床教育学	教育人間学／教育工学／教育心理学／ 教育コミュニケーション学／ 臨床心理学	
		教育環境学	教育社会学／教育制度学／ 生涯教育学／教育文化学	
	共生学系	未来共生学	共生の人間学／共生社会学論／ 共生行動論／共生教育論	
		グローバル共生学	国際協力学／多文化共生学／ 地域創生論／コンフリクトと共生	

※ゴシック体が出願可能な研究分野です。

2. 出願資格

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成29年3月末日までに取得見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月末日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月末日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月末日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、文部科学省の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者又は平成29年3月末日までに24歳に達する者
なお、出願資格(8)により出願しようとする者は、所定の期間内に出願資格審査申請を行ってください。
(後出8.参照)

3. 出願方法及び注意事項

入学志願者は、出願書類を取りそろえ、大阪大学大学院人間科学研究科教務係（本館2階）へ持参するか又は「(3)注意事項の②」により郵送してください。

- (1) 願書等受理期間

受付期間	受付時間
平成28年11月28日(月)～12月2日(金)	10時00分～11時30分 13時30分～15時00分

- (2) 出願書類

- ① 入学願書（本学所定用紙）
- ② 写真票・受験票（写真は正面上半身脱帽、3か月以内に撮影したもので、縦5cm×横4cmの大きさのものを所定の位置に貼付してください。）
- ③ 検定料納入証明書（本学所定用紙を願書の所定箇所に貼付してください。）
※本学の博士前期課程を修了し引き続き博士後期課程に入学を志願する者、国費外国人留学生として入学する者は検定料を納入する必要がないので不要
検定料30,000円を本学所定の検定料振込用紙により、納入してください。
※検定料は出願受付期間の前に振込むことも可能ですが、平成28年11月14日(月)以降としてください。
検定料振込用紙には必要事項を記入のうえ、切離さずに検定料を添えて最寄りの銀行窓口（ATM「現金自動預払機」、コンビニ及びゆうちょ銀行「郵便局」は不可）に提出してください。振込手数料は各自の負担となります。また、本学の窓口での検定料の受理はできませんので、注意してください。
振り込み後、振込用紙についている検定料納入証明書に取扱銀行収納印が押印されていることを確認のうえ、願書の所定箇所に貼付してください。
検定料納入証明書のない願書及び銀行の収納印のない検定料納入証明書は無効とし、当該願書等は受理できません。
- ④ 大学院の修了（見込）証明書（コピー不可）（本研究科出身者は不要。外国の証明書には日本語訳を添付し、修了資格等が確認できる「大学の案内（要覧）」（写でも可）等と日本語訳も添付してください。）
- ⑤ 大学院の成績証明書（コピー不可）（本研究科出身者は不要。外国の証明書には日本語訳を添付してください。）
- ⑥ 論文（入学願書の裏面に記入した志望理由に直接関連する修士論文またはそれと同等の論文）
※平成29年3月修了見込みの者は、平成29年1月12日(木)までに提出してください。期限後到着分は受理しません。なお、論文は所定の提出票を貼った封筒に入れて提出してください。

※日本語または英語以外のものは、日本語または英語の要約をともに提出してください。

※本研究科博士前期課程を平成29年3月修了見込みの者は別途定めるところにより、提出してください。

⑦ 本人の宛先記入の封筒3枚

※①「受験票」等送付用（522円切手貼付）・②「合否通知書類」送付用・③「入学手続書類」送付用

※②及び③については、切手貼付不要

⑧ 外国人の出願者は市区町村長発行の在留資格及び在留期間を明記した「住民票の写し」

※出願者以外の世帯員については、証明不要です。

（注）法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。

⑨ 国費外国人留学生は国費であることを証明する書類（本学在籍者は除きます）

⑩ その他出願資格が確認できる書類（外国の証明書には日本語訳を添付してください）

⑪ 出願資格(6)に相当する審査合格確認（証明）書類。出願資格(6)で出願の者は、出身大学長等が作成（署名）したもので、下記の様式例の内容が記載されたものを提出してください。（外国語の場合は日本語訳を添付してください）

【様式例】□□大学としては、本学の学生である◇◇◇◇氏は、「(審査名称)」に合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有する者であることを確認し、報告いたします。また、当該審査に関する以下の添付資料を同封します。

【添付資料の例】

- ・当該審査の合格の基準
- ・当該審査の合格と当該大学における修士の学位の授与要件の関係を示す資料
- ・当該審査に合格した者と当該大学に編入学した他の大学の修士の学位を有する者の当該大学における博士の学位を授与するプログラムにおける取扱いの関係を示す資料

(3) 注意事項

① 願書提出までに志望する研究分野の担当教員に教務係を通して必ず連絡を取ってください。

（教務係 e-mail：kyomu@hus.osaka-u.ac.jp）

② 願書を郵送する場合は、願書等受理期間内に必着とします。受理期限後に到着したものは受理しません。ただし、平成28年11月30日(水)以前の発信局（日本国内）の消印のある郵便に限り受理します。

（本研究科博士前期課程を平成29年3月修了見込みの者（本研究科博士前期課程社会人特別入試入学者を除く）の出願を除く）

※郵便は書留速達郵便とし、封筒表に「大学院博士後期課程入学願書」と朱書きしてください。

③ 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。

また、出願手続後の出願書類の変更・返還はできません。

④ 検定料は次の場合を除き返還はできません。

- ・出願書類を提出しなかった場合又は受理されなかった場合
- ・検定料を誤って二重に振込んだ場合

※上記により返還請求する場合は、本研究科教務係に連絡のうえ、指定様式により返還請求してください。

⑤ 受験票は、1月中旬に発送します。（受験票が試験日の1週間前までに到着しないときは教務係へ問い合わせてください）

⑥ 出願書類に虚偽の記載をした場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

4. 身体障がい者等の事前相談

身体に障がいがある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、原則として出願開始日の1か月前までに教務係まで問い合わせてください。

5. 入学者選抜

学力試験、口述審査を含む論文考査、成績証明書等を総合して行い、学力試験は①筆記試験（外国語・専門科目）及び②口述審査を含む論文考査を行います。ただし、筆記試験の成績によっては口述審査を含む論文考査の受験資格を失う場合があります。

学力試験は、本研究科（吹田地区）において次のとおり行います。

① 筆記試験

期 日	時 間	科 目	受 験 場 所
平成29年 2月 1日(水)	10:00~11:30	英 語	吹田地区
	12:40~14:20	専門科目	人間科学研究科講義室

注1) 本研究科博士前期課程を平成29年3月修了見込みの者(本研究科博士前期課程社会人特別入試入学者を除く)については、①筆記試験は実施しません。②口述審査を含む論文考査のみ実施します。

注2) 英語試験は、辞書1冊の持込みは可とします。(辞書の種類は問わず1冊。ただし、電子辞書は不可)

※専門科目は辞書使用不可とします。

※本研究科教務係で過去1年分の入試問題の閲覧またはコピーが可能です(コピーの郵送等はありません)。

※口述審査を含む論文考査の受験資格者発表

日 時	場 所
平成29年 2月 3日(金) 9:30	吹田地区 人間科学研究科玄関

また、掲示のほか、平成29年2月2日(木)の17:00以降に人間科学研究科ホームページに口述審査を含む論文考査受験資格者受験番号一覧表を掲載します。

②口述審査を含む論文考査

日 時	場 所
平成29年 2月 3日(金) 10:00~	吹田地区 人間科学研究科講義室

注) 口述審査を含む論文考査は、個人面接の形態で行うため、終了時間は各人異なります。

6. 合格者発表

人間科学研究科玄関において合格者の受験番号を掲示により発表します。

また、人間科学研究科ホームページに合格者受験番号一覧表を掲載する予定です。

日 時	場 所
平成29年 2月 7日(火) 13:30~	吹田地区 人間科学研究科玄関

合格者には、合格通知書及び入学手続案内文書を出願時に同封された封筒にて郵送します。

7. 入学手続

(1) 合格者は、平成29年3月13日(月)~3月15日(水)(受付時間10:00~11:30、13:30~15:00)に、原則として、直接来学のうえ入学手続を完了してください。やむを得ず郵送する場合は、書留にして3月15日(水)17時までには必着するよう送付してください。

(2) 所定の期間内に入学手続を完了しない場合には、入学を辞退したものと取り扱います。

(3) 入学料及び授業料の納入について

納入金 入 学 料 : 282,000円(平成28年現在)

授 業 料 : 年額 535,800円〔半期267,900円〕(平成28年現在)

入学料、授業料の納入時期、納入方法等詳細については、別途入学手続案内文書でお知らせします。

※入学料、授業料の金額については変更することがあります。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時からの新授業料が適用されます。

※本学大学院の修士課程、博士前期課程又は法科大学院の課程を修了し、引き続き博士後期課程に入学する者は入学料の納入不要

※国費外国人留学生として入学する者は入学料、授業料の納入は不要

8. 出願資格審査について

「2. 出願資格の(8)」により出願資格審査を受けようとするものは、申請書類を取りそろえ、申請期間内に届くよう大阪大学大学院人間科学研究科教務係(本館2階)へ持参するか又は書留速達により郵送してください。(大阪大学大学院人間科学研究科 大学院入学資格認定委員会宛)

(1) 申請書類

① 出願資格審査申請書(本学所定用紙)

- ② 出願資格審査調書（本学所定用紙）
- ③ 自己推薦書（A 4 用紙・2,000字程度、今まで行ってきた仕事や勉強（研究）内容と今後行いたい研究内容を含めて作成してください）
- ④ 他者の推薦書（2 通、担当教員、上司等適正能力を評価できる者）※
- ⑤ 最終出身学校の卒業（又は在学期間）証明書又は卒業見込証明書 ※
- ⑥ 最終出身学校の成績証明書 ※
- ⑦ 最終出身学校の学則及びシラバス（授業計画）（コピー可）※
- ⑧ 職歴に関する証明書（履歴に記入した職歴の証明を提出してください）※
- ⑨ その他、自己の学力を示す論文やレポート、所持している資格で参考になるものがあればその写や証明書等 ※
- ⑩ 返信用封筒（長形 3 号－縦23.5cm×12cm）（返信先を明記し、522円切手を貼付してください）
※印を付した申請書類については、日本語以外の場合は、日本語訳を添付してください。

(2) 出願資格審査申請期間

受 付 期 間	受 付 時 間
平成28年10月24日(月)～10月28日(金)	10時00分～11時30分 13時30分～15時00分

(3) 出願資格審査結果通知

平成28年11月11日(金)に審査結果通知書を郵送します。（1 週間を過ぎても到着しない場合は教務係に問い合わせてください）

(4) その他

出願資格審査申請書等、本学所定用紙を郵便で請求する場合は、請求用紙（様式任意。住所・氏名・連絡先（携帯電話等、昼間に連絡のとれる電話番号）を記入）と返信用封筒（長形 3 号－縦23.5cm×横12cmに返信先を明記し、82円切手を貼ったもの）を同封し、封筒の表に「博士後期課程出願資格申請書類請求」と朱書してください。

9. 個人情報の取扱いについて

- (1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。
なお、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。
- (3) 上記の業務を行うにあたり、一部の業務を外部の業者に委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部または一部を提供します。

10. その他

- (1) 郵便で出願書類一式を請求する場合は、必ず返信用封筒（角形 2 号－縦33cm×横24cmに返信先を明記し、205円切手を貼ったもの）を同封し、封筒の表に「博士後期課程募集要項請求」と朱書してください。
- (2) 自動車及び自動二輪（原動機付自転車を含む）による大学構内への入構はできません。
- (3) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。

平成28年 6 月

書類送付先及び問い合わせ先

〒565-0871 吹田市山田丘 1 - 2 大阪大学大学院人間科学研究科教務係
 TEL 06-6879-8014 (直通) 又は 06-6877-5111 (代表) 内線 8014
 e-mail : kyomu@hus.osaka-u.ac.jp
 http://www.hus.osaka-u.ac.jp
 事務取扱時間：平日の 9 時から 17 時

平成28年度 担当教員研究内容一覧

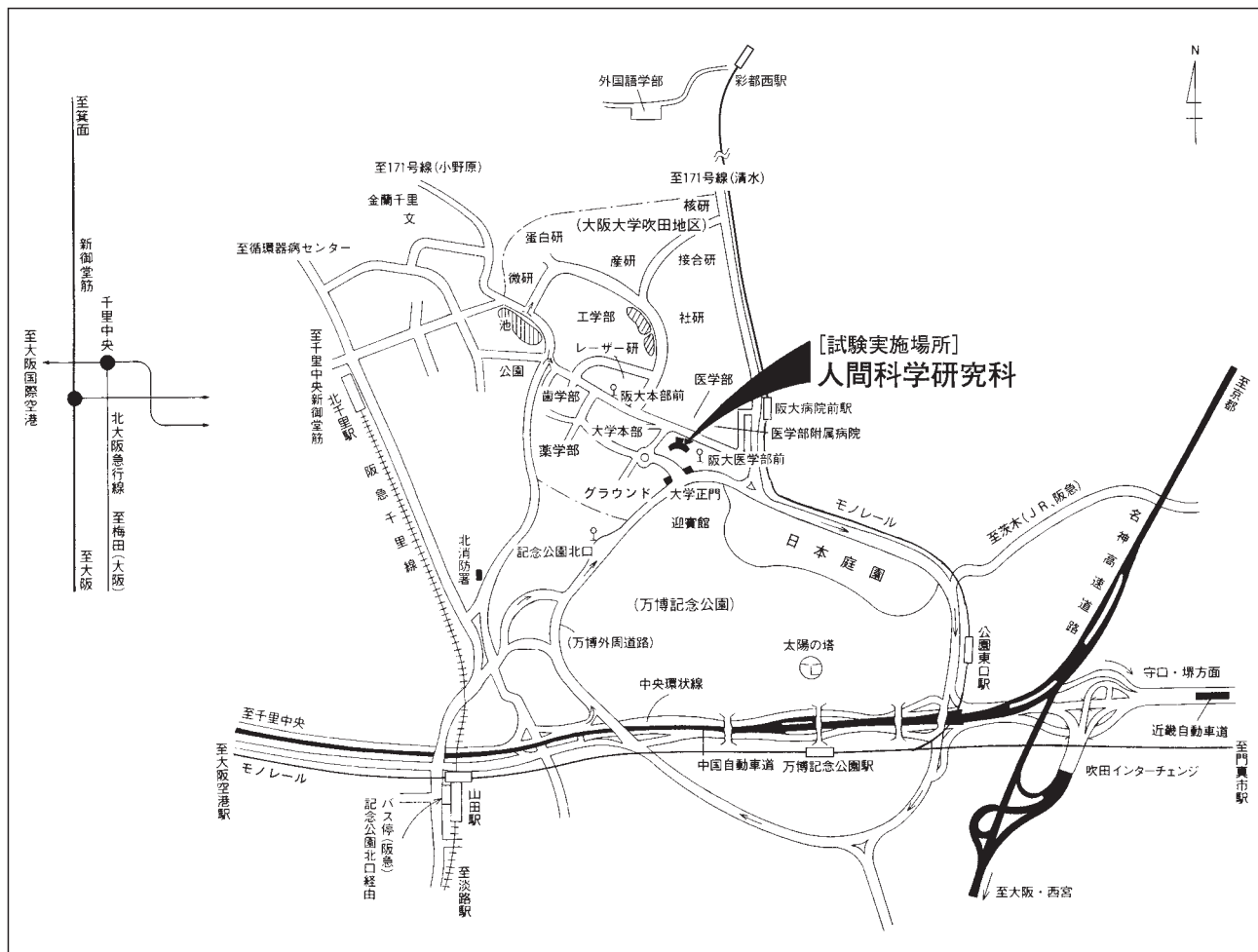
系	講座	研究分野	担当教員	研究内容	
人間行動学	人間行動学	基礎心理学	教授 ◎赤井 誠 生	人間の動機づけ（特に内発的動機づけ）の実験心理学的研究	
			教授 ◎入戸野 宏	心理生理学（特に脳波）、工学心理学、「かわいい」の実験心理学	
			教授 ◎森川 和 則	知覚（特に視覚）と認知の実験心理学的研究	
		応用認知心理学	教授 ◎篠原 一 光	日常的認知に関する実験的研究と認知工学的応用・評価研究	
			社会心理学	教授 ◎釘原 直 樹	危機事態の集団行動、リスク対応行動、集団のパフォーマンス
		臨床死生学・老年行動学		教授 ◎佐藤 眞 一	臨床・応用老年心理学、特に高齢期の生きがいとケアに関わる基礎と応用
			環境行動学	准教授 ◎権藤 恭 之	高齢期の認知機能の特徴、超高齢期における心理的発達、長寿要因の研究
		安全行動学		教授 ◎三好 恵真子	文理融合を軸とする環境問題の学際研究、環境修復リサイクル技術開発、食と環境
			安全行動学	准教授 ◎青野 正 二	環境問題の諸要因と人間行動、騒音制御、音響学、環境評価、環境デザイン
		安全行動学		准教授 ◎小林 清 治	「迷惑施設」の立地をめぐる紛争と合意形成に関する研究、環境問題と公共性
			安全行動学	教授 ◎臼井 伸之介	日常・産業場面でのヒューマンエラー、リスク管理に関する心理学的研究
		行動生態学		比較発達心理学	教授 ◎金澤 忠 博
			教授 ◎日野林 俊 彦		乳・幼児期から思春期・青年期の発達心理学的研究〔平成29年3月退任予定〕
			行動生理学	教授 ◎志村 剛	動機づけ行動の認知神経科学的研究〔平成29年3月退任予定〕
准教授 ◎八十島 安 伸	学習・記憶・情動・行動選択の脳基盤についての行動神経科学的研究				
行動統計科学	教授 ◎足立 浩 平		多変量統計解析の行列モデルと解法の研究開発		
	教授【兼】 基礎工学研究科 狩野 裕		社会科学における統計学的方法論の研究		
生物人類学	比較行動学	准教授 ◎中野 良 彦	運動と形態の系統発達から見た人類進化に関する研究		
		教授 ◎中道 正 之	霊長類の行動発達と社会的認知に関する比較行動学的研究と動物園行動学		
生物人類学	比較行動学	講師 ◎山田 一 憲	霊長類の社会行動の至近要因・発達・適応的機能・進化に関する研究		
		社会環境学	社会学理論 （社会学理論） （現代社会学）	教授 ◎友枝 敏 雄	社会変動論、社会秩序と公共性に関する研究〔平成29年3月退任予定〕
教授【兼】 社会学研究分野 稲場 圭 信	利他主義・市民社会論、ソーシャル・キャピタルとしての宗教に関する研究				
経験社会学 （経験社会学） （社会データ科学）	准教授 ◎高谷 幸		移民研究、現代社会論〔平成28年10月着任予定〕		
	教授 ◎川端 亮		社会調査法、宗教社会学、テキストの計量的分析法		
文化社会学 （コミュニケーション社会学） （文化社会学） （比較社会学）	教授 ◎吉川 徹		計量社会意識論、社会階層論、学歴社会論		
	教授 ◎牟田 和 恵		ジェンダー論、家族社会学、歴史社会学		
福祉社会学 （社会保障政策論） （比較福祉論）	准教授 ◎辻 大 介	コミュニケーション論、メディア研究			
	教授 ◎スコット・ノース Scott North	分業論、共働き家庭における両立問題、労働社会学、法律と社会			
基礎人間学	現代人間学 （科学哲学） （現代思想学） （比較文明学）	教授 ◎山中 浩 司	医療社会学、臨床文化史、科学社会学、テクノロジーの社会研究		
		教授【兼】 GIセンター 石川 真由美	グローバル化と文化・知識、高等教育のグローバル化、東南アジア/日本社会論		
基礎人間学	現代人間学 （科学哲学） （現代思想学） （比較文明学）	教授 ◎斉藤 弥 生	高齢・障害者福祉、市民参画やボランティア活動に関する研究および北欧諸国との比較社会研究		
		講師 ◎遠藤 知 子	社会福祉政策、サードセクターと社会的経済、現代政治理論		
人間科学	人間科学	現代人間学 （科学哲学） （現代思想学） （比較文明学）	教授 ◎中山 康 雄	科学哲学、言語哲学、集団的認識の理論的研究、時間の哲学、心の哲学	
			教授【兼】 共生の人間学研究分野 檜垣 立 哉	現代フランス哲学、日本哲学、生命論	
			教授 ◎村上 靖 彦	現象学、現象学的な質的研究	
		人類学 （人類学） （科学技術と文化）	教授 ◎ヴォルフガング・シュヴェンター Wolfgang Schwentker	グローバル化の理論、文明論、比較思想史、文化と記憶	
			准教授 ◎鈴木 広 和	歴史叙述の歴史、中世東中欧の歴史	
		人類学 （人類学） （科学技術と文化）	教授【兼】 コソボと共生研究分野 栗本 英 世	民族誌学、北東アフリカ研究、政治・歴史人類学的研究	
			教授 ◎ズグスタ・リチャード Zgusta Richard	北アジアの民族学に関する研究、東南アジア諸民族の歴史人類学	
		人類学 （人類学） （科学技術と文化）	教授 ◎中川 敏	東インドネシアの民族誌的研究及び理論人類学的探究	
			准教授 ◎福岡 まどか	芸術表現・身体表象とアイデンティティに関する人類学的研究、東南アジアの上演芸術研究（音楽、舞踊、演劇、物語、ジェンダー）	
		人類学 （人類学） （科学技術と文化）	教授 ◎白川 千 尋	呪術と科学の関係に関する人類学的研究、アジア・オセアニア研究	
教授【兼】 CSCD 池田 光 穂	医療人類学、中米民族誌学、人類学教育、生命倫理学（研究倫理）、臨床コミュニケーション				
人類学 （人類学） （科学技術と文化）	准教授【兼】 言語文化研究科 大村 敬 一	イスパノ文化と言語、身体的な実践と認知の関係、人間と環境の関係、先住民問題			
	准教授 ◎森田 敦 郎	科学技術の人類学、環境変動をめぐる科学/テクノロジー/政治のダイナミズム、タイ研究			
教育学系	臨床教育学	教授 ◎藤川 信 夫	歴史的・文化的教育人間学、教育者・被教育者間の相互行為に関するドラマツルギー的研究		
		准教授 ◎岡部 美 香	近代教育思想史、教育人間学、世代継承の歴史的教育的人類学		
	教育工学	教授 ◎前迫 孝 憲	教育と情報システムおよびヒューマンインターフェースに関する研究		
		准教授 ◎西森 年 寿	テクノロジー活用などの学習環境のデザインに関する研究		
教育工学	教授【兼】 経営企画オフィス 齊藤 貴 浩	教育事業評価、大学評価、eラーニング・マネジメント、高校生の進路選択			

系	講座	研究分野	担当教員	研究内容
教育学系	臨床教育学	教育心理学	教授 ◎藤岡 淳子	非行・犯罪の心理学と行動変化のための働きかけに関する研究
			准教授 ◎野坂 祐子	被害体験による影響とその回復に関する研究
	臨床心理学 (MC臨床心理士養成コース)	教育コミュニケーション学	特任講師【兼】 ハラメント相談室 上原 秀子	ハラメントにおける加害と被害、学校心理臨床に関する研究
			教授 ◎三宮 真智子	思考・学習、コミュニケーションに対するメタ認知の研究
	臨床心理学 (MC臨床心理士養成コース)	教育心理学	教授 ◎井村 修	障がい児・者への臨床動作法の実践的研究、統合失調症や筋ジストロフィーなどの認知障害の研究
			教授 ◎老松 克博	心理療法における宗教性、心身相関、自己愛、イメージ変容についてのユング心理学的、精神医学的研究
			教授【兼】 教育心理学研究分野 藤岡 淳子	非行・犯罪の心理学と行動変化のための働きかけに関する研究
			准教授 ◎佐々木 淳	社交不安に関する研究及び認知行動療法の実践と研究
			准教授 ◎野村 晴夫	心理療法、生涯発達における語り(ナラティブ)と記憶想起の機能の研究
			准教授【兼】 保健センター 石金 直美	生涯発達の段階、病態水準、心理療法の行われる場の違いによる心理療法のプロセスおよび治癒因子の研究
	教育学系	教育社会学	教授 ◎近藤 博之	教育機会、教育と社会移動に関する計量的研究
			准教授 ◎中澤 渉	教育と階層・労働市場に関する実証研究
		教育制度学	教授 ◎小野田 正利	学校と保護者の関係づくりとトラブル対応に関する研究
			准教授 ◎園山 大祐	EU/フランス教育政策・制度に関する比較国際研究
生涯教育学		教授 ◎木村 涼子	ジェンダーと教育に関する研究、ジェンダーに関する歴史社会学	
		教授 ◎平沢 安政	人権教育に関する研究	
教育文化学		教授【兼】 共生教育論分野 山本ベヴァリー・アン Yamamoto Beverley Anne	高等教育の国際化研究、比較・国際教育学、思春期の健康教育に関する研究	
		教授【兼】 国際教育交流センター 有川 友子	教育人類学、異文化間教育学、文化習得に関する研究	
教育文化学		准教授 ◎岡田 千あき	生涯スポーツ、コミュニティとスポーツ、開発と平和のためのスポーツに関する研究	
		教授【兼】 共生社会学研究分野 志水 宏吉	教育システム・学校文化に関する社会学的研究	
共生学系		共生の人間学	教授 ◎檜垣 立哉	共生の哲学思想、生命と生態学、生態的な文明・言語・芸術学的研究
			教授【兼】 教育人間学研究分野 藤川 信夫	歴史的・文化的人間学、支援者・被支援者間の相互行為に関するドラマツルギー的研究
		共生社会論	教授 ◎志水 宏吉	教育における排除と包摂、格差社会のなかの公正に関する研究
			教授 ◎千葉 泉	ラテンアメリカの民衆文化、音楽を通じたコミュニケーション、「自分らしさ」に基づく共生社会の構築に関する研究
	共生行動論	教授 ◎稲場 圭信	利他主義・市民社会のアクション・リサーチ、ソーシャル・キャピタルとしての宗教に関する研究	
		教授 ◎渥美 公秀	ボランティア行動を介した被災者・被災地との共生に関するグループ・ダイナミクス研究	
	共生教育論	教授【兼】 国際教育交流センター 近藤 佐知彦	多文化共生の局面での行動や社会構築のあり方に関する研究	
		准教授【兼】 臨床心理学、 老年行動学研究分野 権藤 恭之	ソーシャルキャピタルが健康、寿命に与える影響の研究、長寿者の語りから見る幸福感の研究	
	国際協力学	教授【兼】 生涯教育学研究分野 平沢 安政	多文化教育に関する研究	
		教授 ◎山本ベヴァリー・アン Yamamoto Beverley Anne	ジェンダー・セクシュアリティ研究、多文化社会の諸問題、教育の国際化研究	
	多文化共生学	准教授 ◎ドン・バイサウス Don Bysouth	多文化コミュニケーション研究、教育の国際化研究、多文化社会の心理学的研究	
		教授 ◎澤村 信英	比較国際教育学、国際教育開発論、アフリカにおける教育開発・国際協力に関する研究	
	地域創生論	教授 ◎中村 安秀	国際保健医療、母子保健学、外国人医療と医療通訳、災害人道支援(平成29年3月退任予定)	
		教授【兼】 人類学研究分野 白川 千尋	国際協力活動の人類学的研究	
コンフリクトと共生	教授 ◎藤目 ゆき	日本近現代史、アジア女性史、ジェンダー論		
	教授【兼】 GIセンター ◎宮原 暁	東・東南アジアにおける中国系を中心とした人口移動と文化変容に関する人類学的研究、法と文化の人類学的研究		
コンフリクトと共生	講師【兼】 GIセンター ◎島 蘭 洋介	医療人類学、東南アジア民族誌、医療技術と身体・社会・文化に関する研究		
	教授 ◎大谷 順子	中国・中央アジア地域の社会開発、国際保健・人口学、国際災害社会学、研究方法論		
コンフリクトと共生	教授 ◎河森 正人	東アジアの高齢者・障がい者福祉、共生のコミュニティ(り)に関する研究、地方創生、タイ地域研究		
	准教授【兼】 GIセンター ◎住村 欣範	地域創生に関する研究、東南アジアにおける食の近代化に関する研究、国際協力に関する研究		
コンフリクトと共生	教授 ◎栗本 英世	紛争と和解、および共存・共生に関する人類学的研究		
	講師【兼】 比較行動学研究分野 山田 一憲	利害の対立と葛藤解決がもたらす霊長類の社会進化に関する研究		

(注) 1. この一覧表は平成28年6月1日現在で作成しています。以後の変更は人間科学研究科ホームページ(<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>)等でお知らせしますので、ご確認ください。

- 職名の(兼)は研究科内兼任教員を、【兼】は研究科外の兼任教員を示します。職名の下を表記は所属を示します。なお、「GIセンター」はグローバルイニシアティブ・センター、「CSCD」はコミュニケーション・デザインセンターの略称です。
- 氏名の頭に◎を付した教員については、その研究分野において、主たる指導教員になることが可能です。また、氏名の頭に◎を付していない教員は、主たる指導教員になることができません。(副指導教員になることは可能です) 以上に注意の上、入学願書には、希望する研究分野を記入してください。

● 人間科学研究科 試験実施場所 ●



※ 本学では車両による入構を規制しています。

○利用交通機関 (吹田地区)

〔バス〕 阪急バス 千里中央駅発「阪大本部前行」又は「茨木美穂ヶ丘行」(阪急山田駅経由)

近鉄バス 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」(JR茨木駅経由)

いずれも、「阪大医学部前」又は「阪大本部前」下車、徒歩約5分

〔モノレール〕 大阪モノレール「阪大病院前駅」下車西へ徒歩約10分

〔電車〕 阪急電車千里線 「北千里駅(終点)」下車 東へ徒歩約30分